

ハンドボール

ぎふ清流国体ハンドボール競技

結果報告

No.143

大会名	第67回 国民体育大会 ハンドボール競技				
競技日	10月6日(土)	試合記号	D⑩	回戦	準々決勝
種別	成年男子	会場	飛騨市桜ヶ丘体育館		
A(都道府県名)			B(都道府県名)		
宮城県			埼玉県		
得点合計	小計		小計	得点合計	
17	4	前半	20	41	
	13	後半	21		
		第1延長(前半)			
		第1延長(後半)			
		第2延長(前半)			
		第2延長(後半)			
		7mTC			

【戦評】

記載者氏名

鷲見浩章

1回戦で香川県に大量50得点をあげて勝利した埼玉県に対して、宮城県がどう挑むか楽しみな準々決勝となった。先に試合の流れを制したのは埼玉県。開始33秒で埼玉県2番石川の速攻が決まると立て続けに8番東長濱も速攻を決める。一方宮城県も6番上野のカットインや2番崎前、5番遠山のポストシュートでチャンスを作るも埼玉県のゴールキーパー浦和の好セーブにゴールを阻まれてしまう。得点することへの焦りからか、宮城県は攻撃のリズムが作れず、ミスが増えていく。そのチャンスを逃さず埼玉県は速攻でリードを広げていく。しかし、17分過ぎに宮城県に7mスローのチャンスが生まれる。これを宮城県6番上野が落ち着いて決めようやく1点目をもぎ取った。埼玉県の固い3-2-1ディフェンスの攻略の糸口を見いだせないまま、4対20で前半を折り返した。

後半は5番岩永のスカイプレーからの得点で始まった。前半の流れそのままに終始埼玉県がゲームを支配するかと思われたが、宮城県6番上野が個人技で3点をあげ、流れをつかみ始める。埼玉県は、宮城県のゴールキーパー関口の好セーブなどで完全にゲームを支配できない。20分過ぎ、埼玉県5番岩永が退場すると、宮城県はディフェンスを攻撃的な3-2-1へと変更し、ディフェンスから速攻を狙う。後半は両チーム流れをつかみきれぬまま試合が終了した。